



「アジアの開発経験と他地域への適用可能性」

本プログラムは実証研究の蓄積、内外政策機関との連携、若手研究者の動員、政策策定支援などを通じて、開発援助の実践的インプットとなりうる政策研究をおこなっています。対象地域は主にアジアとアフリカです。我々は研究ネットワークの構築をめざしており、革新的で開かれた政策研究のクリエイターかつハブの役割を果たしたいと思っています。

農村調査 ケニア、エチオピア、ウガンダ、フィリピン、インド、中国などで実施中。酪農と穀物生産の有機的統合により、アフリカにおいてもアジアの「緑の革命」に匹敵する穀物生産の飛躍的な向上が可能であることを提言。

産業調査 日本、中国、ガーナ、エチオピア、ケニア、バングラデシュ、フィリピン、ベトナムなどで実施中。地場産業発展には各国共通の類似パターンがあること、政策でその質的向上を支援しうること、アフリカでも産業集積の形成と「模倣的革新」への支援を行えば、産業発展が可能であることを提言。

海外拠点形成 Vietnam Development Forum をハノイに常設。研究革新、政策インパクト、若手人材育成を目的に、多岐にわたる開発政策支援を実施中。工業省の裾野産業調査支援。政策担当者向けに *Improving Industrial Policy Formulation* を出版。現在、工業省の「二輪マスタープラン」策定のコーディネータをつとめている。

援助政策分析・提言 日本政府が政策協議・ドナー会合を行う際に必要な知的資料を提供。「貧困削減と大規模インフラの関係」「援助モダリティ評価」「ガーナ国別援助計画策定」「中央行政機関の開発政策策定方法の国際比較」など。アフリカ研究では分権化、外来教育政策内部化の調査も行う。

注、本日のシンポジウムでは、産業調査と海外拠点形成の中間成果を中心に報告します。

主な連携先

日本の援助省庁・機関(東京・現地)、ハノイ国民経済大学、アフリカの諸大学(Egerton, Makerere, Addis Ababa, Cape Coast)、Sussex 大学、FAO、ADB、DFID、ODI、IRRI、ベトナム工業省・投資計画省、フィリピン開発問題研究所(PIDS)、国際農林業研究所(ICRAF)、国際畜産研究所(ILRI)など

メンバー

大野健一*、大塚啓二郎、園部哲史、大野泉、速水佑次郎、加治佐敬、山野峰、山田肖子、山内太、カリラジャン・カリアッパ・ピライ、青木隆、笹岡雄一(順不同、*拠点リーダー)。